

川からの贈り物

たくさんの小さな魚が泳ぐのがよく見える。透き通った水。周囲の山々や青空。空に浮かぶ、入道雲。真夏の太陽。とんびの鳴き声やこどもの笑い声。ゆつくりと水が流れる、広い川。これが、私にとつての川の風景だ。この風景が、一枚の写真から音が聞こえてくるように、今でも私の頭に残っている。私は、小学生時代を和歌山県新宮市で過ごした。その当時、私は、夏休みは毎日のように川で泳いでいた。

また、友人の母親に、ホタルを見に連れて行ってもらった。夜、山奥の川に皆で行った。その光景を見ると、言葉が出なくなるほど感動した。たくさんの木の周りにホタルが数えきれないほどとんでいた。クリスマスツリーが何十本もあるようだった。皆でホタルを見ていると、山からおじいさんがおりてきて、

生駒市立上中学校 三年

堀 杏菜

ホタルについて、いろいろ教えてくれた。しかし、二十一年に起こった紀伊半島豪雨で土砂崩れが起こり、その場所に行くまでの道は通れなくなってしまった。その道は今も通れず、ホタルもいなくなっただろう。私は、小学生時代、川の楽しさ、川の恵みを知った。それと同時に、紀伊半島豪雨で川が氾濫した時には、川の恐ろしさや怖さも学んだ。

このように、川で泳いだり、川でのホタルを見たりすることができるとは、当たり前だと思っていた。それが、そうではなく、自然にとっても恵まれた環境だったと気づいたのは、奈良県に引越してからだ。奈良で見たどの川も、濁っていて、新宮の川とは違った。

例えば、竜田川だ。百人一首の二首の歌枕として登場し、古くからの有名な紅葉の名所。たまたま車で通り過ぎる時、こんな車通りの多いところにあるのかとも思ったが、どんな

川だろうと期待していた。しかし、目の前に現れたのは、自分がイメージしていたような川ではなかった。川の隣の「きれいにしよう、竜田川」という汚れた看板と濁った水。木や草花などの自然に囲まれた、山奥の静かな雄大な川、という想像をしていた私にとって、それは衝撃的なものだった。また、大和川も二千六年には、二年連続で「日本一汚い川」に選ばれていた。しかし、昔は泳げるほどきれいだっただろう。現在も、水質はだんだん良くなっているらしい。

このような水質汚染は、何が原因なのだろうか。インターネットで調べてみると、毎日の生活用水が大きな原因だと分かった。生活用水とは、炊事や清掃などの時に使う水のことで。私は、どうすれば水を汚さずにすむかを考えてみた。真っ先に思いついたのが、洗剤を使いすぎないこと、フライパンや皿についた油をふき取ってから洗うことだ。私はつい、洗剤を使いすぎたり、油をふき取らなければいけないと思いつつ、面倒くさがって人任せにしてしまったりする。

最近、学校でユニセフの講演があった。外

国では、小さな女の子が重い水を毎日、何十キロも背負って歩くそう。私も二キロ半の道のりを、約十キロの荷物を持って学校へ毎日登校する。とても疲れて大変だが、講演をきくと、水がこぼれる心配もないし、距離もその女の子と比べると、とても短く、自分の方がとても楽に感じる。改めて、日本が恵まれていること、水のありがたみを知った。

私はこれから水を、大切に、汚さずに使いたいと思う。そして、水質汚染問題を改善しなければいけない。昔の川は、ホタルが住み、人間も泳げるような川だったはず。しかし、今、身の回りにはホタルはいないし、人間も泳げない。また、そのような経験をしたことがある人も多くはないだろう。日常生活での小さなことに、まずは自分が気をつけていきたい。身の回りには、ホタルをきれいにして、昔のように、ホタルを見たり、泳いだりしたいと思う。